昭和十一年六月

一、佛蘭西新内閣成立とフランの運命

一、フランス新内閣の勞傭及び社會立法

一、フランス經濟の展望

國政研究會

群馬県立図書館
中島文庫

6407

注意事項
○資料は大切に扱いましょう。
○資料は転貸借はお断りします。
○15日間の期限に必ず返して下さい。
○資料を汚損または紛失した時は同一の資料又は相当代価を弁償していただきます。
群馬県立図書館
前橋市日吉町一丁目14-8
電話（0272）㉛3008番

参考

昭和十一年六月十一日

佛蘭西新内閣成立とフランの運命

國政研究會

佛國新内閣成立とフランの運命

新内閣の顔觸

首相　レオン・ブルーム氏
陸相　ダラディエ氏
海相　デュパルク氏
空相　コット氏
内相　サラングロ氏
外相　デルボス氏
藏相　オリオル氏
經濟相　スピナッス氏
商相　パスチード氏
勞働相　ジャン・ルバ氏

四月二十六日及び五月三日の二回のフランス総選挙の結果、左翼の民衆戦線が大捷を博し、議席総数六百十四の中、三百七十八の絶対多数を占め、特に社會党は選挙前の議席九十五より一躍百四十六となり、共産党は十より一挙八十二に増加した。これ即ちイタリーの東阿強行政策によつて聯盟の権威が地に墜ち、フランの低落によつて金ブロツクの運命が危機に瀕するといふヨーロツパの動揺の只中において、聯盟並に金ブロツクの両者の中心的支持者たるフランスにおいて行はれた総選挙現実の結果であるといふ點に見逃し難い意義を有つ。

この選挙の結果として第五次挙國一致サロー内閣の更迭、従つ

て左翼、民衆戦線内閣の出現を見ることゝなつたが、然らばフランス新内閣は如何なる政策をとり、又ヨーロツパの外交並に経済は如何なる方向をたどらんとするか、列國の視線はこゝに集る。殊に暫く小康に入つた金ブロツクに對する國際金融市場の動きは動兆を胎み、これに對しイギリス為替平衡資金はフラン維持策の継續か、放棄かの岐路に立ちつゝあるかのごとくみられる。こゝにフランス政局の変化の背景を明にし、今後の政治経済の動向を検してみよう。

左翼の進出原因

今次のフランス総選挙において何故右翼凋落の下に左翼の大進

出をみたか。思ふにこれはフランスの外交的問題、經済的問題等内外の多難なる情勢が挙國一致内閣に對する失望を國民に與へたことに因由するところ大であらう。だがフランスの政党なるものの状態及び國民の投票の実情なるものを考へるとき、左翼進出の根因は畢竟右翼の積極化に対するファシズム警戒の民意の反映であり、即ち問題の中心は内政にあり、なほ又左翼協調が成功した結果に外ならぬのである。従って經済政策において左翼のインフレ政策が人民の支持を得たわけでもなく、況んや平價切下げが國民多数の賛成を得たわけでもない。又外交政策上の動向がこれによって確立した意味でもない。このことはフランスの政党を知り、選挙

戰が如何に行はれたかを知るものにとつて直に明かなるところである。蓋し、今日フランスの下院には略ぼ十九の政治的集團がある。これらの何れも甚だ紛はしい名稱を持つてゐるが、その党の実体の相互関係も亦同様である。而して名稱においては極めて急進的にみえその政策明白なるごとく考へられる諸党も実質は甚だ穏健である。急進社會党（ラヂカル・ソシアリスト）のごときもプチイブル的政略に過ぎず、従つてその政綱のごとき甚だ明瞭を欠く。結局政党といはんより寄合ひであり、党の規律、統制のごときものもない。選挙民も党に対して投票するのでなく、個人に対して投票するのであり、選挙區が最も舊式なる小選挙區であるため政党の数は多くなり選挙の結果も甚だ偶然によつて左右されることが多い。

政党及び院外勢力

政党の内容及びその分立の姿を見なければフランス政界の動きは明かとならぬが、こゝでは暫く措く。たゞ一般に政党が左翼、中央、右翼の三つに分類されてゐることを前提として考察を進める。一九三二年の総選挙において左翼全國投票数は総投票数の約六〇%を獲得し、當時既に三百五十議席を占めたのであるが、左翼陣営の中において急進社會党と社會党との間の抗争が根底をなして政権は常に急進社會党を中心に他との薄弱なる妥協の上に成立した少数党弱体内閣の上を移動し財政、經済等の問題に一貫した國策を遂行することは能はず、一九三四年二月までの十九ヶ月間に内閣の更迭すること六回の多きに上り、社會党のレオン・ブルーム氏の去就は屢々内閣の生命を支配し、彼をして「内閣倒し」の呼称を得さしめたものである。

かくのごとき内閣の弱体性は議會政治の腐敗せることゝ共に内外多難なるフランスの行路を誤らんとする虞あることが一部に憂慮され、加ふるに獨伊のファッシヨ政権確立が刺戟となり、近年議會政治、民衆政治に對する反動は猛然として現れた。この運動の中心をなせるものは青年愛國党及びソリダリテ・フランセ並にクロア・ド・フウのごとき議會外の政治結社であり、從來より多くは私兵を蓄へつゝあつたファッシヨ的勢力である。しかしこれらが活溌なる活動を開始することゝなつた動機は一九三四年二月のパリ暴動事件である。

サロー内閣の出現

この事件を契機として議會の革新と強力内閣樹立の方向が展開し具体的には議會制度調査委員の成立と擧國一致内閣の成立、立法権の政府委任、議會休會、政争休戦のごとき運動となつた。強

カ内閣の出現は右翼、中央、急進社會党の聯繫の上に立つたヅーメルグ内閣に始まり、フランダン、ブイツソン、ラヴアルの四つの内閣を經てサロー内閣となつた。これら挙國一致内閣は—

一、豫算の均衡を確立し、政府の信用を回復し、同時に經濟的回復を促進すること。

二、フランスを外國、殊にドイツの攻撃より保障するごとき外交政治を樹立すること。

三、最近発展して来た危険なる國内不安と騒擾を鎮壓し、一般的政治安定を回復すること。

の三つの目標に向つて努力するところがあつたが、この実績依然として脆弱内閣であり、更迭を繰返すこと舊のごとく、最近二ケ年餘の実績はその何れの目標についても殆ど前進をみてゐない。ヅーメル内閣は行政権強化と議會革進の努力を以て出発したが

パリ事件の印象薄らぐとともに議會の反撃を受けて倒れ、その結果は議會外において反議會結社の活動を活潑ならしめた。ラヴアル内閣はドイツ包圍陣形を樹立する政策に熱中し、ソ聯との同盟を締結したが遂に伊エ紛争解決に失敗して倒れた。サロー内閣はドイツの再軍備とライン進出とに遭ひ、更に西部ロカルノ條約の失敗後、伊エ紛争をめぐつてラインの保障をなすべきイギリスとの協力に亀裂を生じ、聯盟外交も亦動揺し、國際不安は何等の解決をみない。而も財政の不均衡と經濟不況とは愈々累積して國民貯蓄を保護する最大の支柱金本位も亦危殆に瀕するに至つた。

フアツシヨ戰線

かゝる状態の下に総選挙戰が行はれた。そして特に内政を中心として投票が争はれたことは既述の如く國民戰線、民衆戰線なる

二大陣営の結成と選挙戦の角逐とはファッショ動向をめぐつて行はれた。フランス國内不安は最近如何に深まりつゝあつたか、ここに最近のファッショ抬頭の形勢を検し左右抗争の深刻化せる根底を明かにすることが必要となる。

ヅーメルグ内閣以後引續いて試みられた「政治休戦」は事実上失敗し、閣内において左右兩翼の協力が行はれつゝも議會外では二大陣営に軋轢が激化し、殊に右翼の反議會運動が活潑を加へると共に議會政治と民主主義とを擁護せんとする左翼諸党は自衛上から從來の對立を棄て、反ファッショの共同戰線を布かざるを得なくなつた。民衆戰線の成立はかくして実現されたのである。

次にファッショ戰線の内容を見るに左のごとくである。

△クロア・ド・フウ（火の十字）

レオン・ドーディのアクション・フランセやカムロ・ド・ロアなど古くからある所謂ファシスト團体（リーグと呼ばれる）は一九三二年より三三年の間に急激に釀成された議會政治及び議員に對する一般的不満を利用し、民心を煽動した。三四年七月の血醒きパリ暴動以來「リーグ」の結合力は俄に強化した。退役陸軍中佐フランソア・ド・ラ・ロック氏により指導される大戰に功のあつた在郷軍人のみを包含する火の十字はこれらの團体の中、最も有力となつた。それが急激に勢力を得た理由は優れた指揮と訓練にある。火の十字にはその補助的團体として國民義勇兵團及びシンパイザーを打つて一丸とする外廓團体がある。この勢力は一九三四年の初めには二十万であつたが、三五年の終り近くには七十一万二千になつたといはれる。その勢力、その軍隊的訓練等は反ファシスト勢力への脅威となつた。火の十字は既成政党の政綱、政策、スローガンを輕蔑し、フランスの必要とするものは何よりも先づ國家的福

社を考へる清廉有能なる人々による政府であると主張する。それはまた友愛と挙國的協和の実現をはかり、この故に階級闘争を承認する社會主義と國家的利害を忘却し議論分裂のために多数党に分れる議會制とを痛烈に非難する。経済的には工業、農業及び諸職業の團結を主張し、外交的には國防強化を強調する。

△フロン・ペイザン（農民戰線）

地方的ファシスト運動の中心はアンリ・ドリヂエールによつて指揮される農民戰線或はグリーンシャツであり、この運動は農産品の下落に反対し、政府の無為無能を攻撃して起つたのである。中間商人、製粉業者及び肥料業者等によつて取得される不當利益の排除を主張する。

その他いくつかのファッシヨ團体は私兵を率ゐパリを中心に各地に非常時動員網をつくり、社會党のブルーム襲撃事件のごとき

その波紋として現れたに過ぎない。

反ファッシヨ戰線

ファッシヨ運動の擡頭は遂に左翼諸政党を結合せしめ、民主制維持を考慮するに至らしめた。殊に社會党と共産党との協調は従来至難であつたが三四年二月暴動以来共産党も徐に社會党に公式的反対を続けることは結局右翼を利することを悟つたので三四年三月から聯携交渉が熱心に開始され、遂に同年七月に協約が締結された。その協約によれば両党は共同の會合とデモンストレーシヨンにより、ファッシヨ反対の共同戰線を張ることになつたのである。その目的の中には右翼リーグの武装解除及び解散、民主的自由の擁護、緊急命令権の廃止、戰争準備への反対等が挙げられてゐる。

而もこの聯合を通じて労働組合も亦協同戰線を布くことになり、

約五十万の組合員が議會外運動において右翼と実力的対立を示すに至つたのである。七月社會党との提携後共産党は進んで急進社會党のごときブルジョア政党をも包含し、反ファッショ戦線の擴大を策したが、この目的は遂に「民衆戦線」の形式によつて完成された。一九三五年七月十四日に約三十万の市民が民衆戦線の最初のデモに参加し、その参加者は國際的平和のための協力、ファシスト團体の解散、デモクラシーの擁護を宣誓した。

左翼派の勝利

これに刺戟されて遂に九十六に達する他の各種政治結社はこの民衆戦線のために恒常的な中央委員會の設立に同意し、五ケ月後には最小限度の要求のプログラムを採決した。このプログラムは穏健なもので何等社會主義的綱領を含んでゐなかつたもので、共産党の理論的譲歩と実質的勝利とをみる。

反ファッショ勢力はかくして優勢となり、議會をしてファッショ團体鎮圧の目的を持つ立法を採用すべく強要した。急進社會党の圧迫の下にラヴァル内閣は昨年十月「共和國の擁護」のための法律を續々と発布したのも左翼抬頭の現れである。しかし左翼はもつと徹底した立法を要求した。「ファシストのテロ」を大目にみる政府を難詰して内閣の死命を脅かすに至つたが、この時火の十字の代辯者ジャン・イパネガライ氏は総ての政治團体の武装解除を提案した。これを巧妙に利用したレオン・ブルーム氏は単に武装解除のみならず総ての政治結社を禁止する三つの法案を提出し、昨年十二月末議會を通過して本年一月十二日発布を見たのである。ラヴァル内閣はこの法律によつて何等の行動をとるに至らずして倒れたが、サロー内閣は二月十三日命令を発し総ての王党團体に解散を命じた。それは王党たるカムロ・ド・ロアが社會党首領レオン・

ブルーム氏を攻撃し、これに重傷を負はしめたゝめである。

かくて民衆戰線結合の結果は左翼の大捷を齎らしたが、こゝに政權は當分左翼の手中に歸し、ファッショ陣營に對する壓迫が加へられるものとみられる。しかしながら政情は安定し、強力内閣が生誕し、國策確立を現然するであらうか。

左翼は右翼との抗争において、換言すればファッショ排撃において一致した。だが進んで今後の政治、經濟、外交上の具体的綱領において一致し得るであらうか。又若しこゝに一致が成立するならばそれは最小限度の実行といふことになり、無物無策といふことを以て終り、多難なる客観的情勢は再びファッショの擡頭によつて革命的危機の再発といふ結果を惹起するであらう。

客観的情勢の最大の圧力はいふまでもなく國防不安と經濟的の窮迫とである。

選擧と經濟對策

既に述べたごとく最近の總選擧において投票を決定したものはファッショ問題である。しかしながらこのことは必ずしも國民の関心が外交及び財政經濟に向けられなかつたといふのではない。実情は逆に政党側において具体的政綱を示して國民にアッピールしなかつたといふことであり、極言すれば特に重大なる筈の經濟問題において政策の貧困が民衆をしてたゞ表面の問題たるファシズムを政争の中心題目となさしめたものといはなければならない。

外交の問題について、左翼は右翼を以て聯盟を裏切り、伊エ紛争においても生温い態度をとり、イギリスを疏遠にしたと攻撃し、聯盟主義を標榜した。これに對して右翼は左翼を以て共産党及びソ聯の指導の下にドイツと事を構へんとするものであるとなし「民衆戰線は戰争を意味する」といふスローガンを掲げたものであつ

たが、これ亦格別民衆を動かしたともみえない。

ところで政党が政策上の貧困を示しつゝある經済的問題は選挙において如何に取扱はれたか。

左翼の財經策

貨幣問題を未解決に放置し、フランのオーバー・ヴァリユエーシヨンを中心に經済財政の窮状を続けつゝあるフランスにとつては經済的諸問題は選挙において相当重大な役割を演じた。左翼はデフレに反対して何等かの計画經済に傾き、而も金融資本の寡頭政治の抑制又は破壊を主張した。然るに各党はそれぞれ經済政策を盛り沢山に有して居り、その多くは計画經済の色彩を帯びてゐるが、民衆戦線は全左翼の最少限度の要求を示し、軍需工業及び中央銀行の國有化を提唱した。民衆戦線はインフレ的效果を持つ多数の方策を提案するが、そのプログラム遂行が果してフラン切下げを齎らすべきや否やの重大問題に當面するのを避けて来たのである。

他方右翼の態度を見るに左翼の統制經済を排し、左翼を以て直に平價切下げとインフレとに導くものとして攻撃したが、それ自体格別の政策を持たない。

かくして選挙の直接の結果が左翼内閣の出現を齎らすとしても經済政策上如何なる変化を示すかは全く不明である。蓋し過去の挙國一致内閣の下においても財政デフレは全く不可能であり、經済統制は緩慢ながら不可避の勢を以て行はれて来たのである。それに比し民衆戦線の最少限度スローガンがどれ程の差を積極的に持つかは疑問とする。故に建設的政策が經済動向を支配せず、經済動向が政策を押し流すところに依然たる混沌状態がある。

金本位制を固守

こゝにフランス經済の現状が金本位維持の重圧を如何に受けつ

つあるかを見よう。
フランス經済は一九二九年以後の世界經済恐慌の疾風の只中において當初その打撃を受けることが輕かつた。その理由は
(イ)一九二八年のフラン切下げによる物價水準の國際的低下。
(ロ)外國貿易に依存する程度の低い經済組織。
(ハ)工業依存率の低度にして農工間の國内的均衡狀態と彈力性。
(ニ)富の公平なる分配。
によるものと見るべきである。
しかしながら一九三一年を轉機として更に一九三三年を以て急角度に恐慌へ顚落した。イギリス並にスターリング・ブロックの金離脱がこの動向となり、世界貿易收縮の現実化と旅客收入の減少は著しき影響を与へ、更にドルの切下げを見るに及んでフランス經済は対外的にデスロケート(dislocate)し、對内的に變調を要す

る事態に立至つた。こゝに經済回復上如何にして為替低落國の物價及び生産費に追隨し、國内の兩價格間の調和をはかるかが問題となつた。
この目的達成のためには二つの方法があることが明かである。第一の方法は賃銀、俸給、金利の引下げ及び公支出の大削減による物價及び生産費の低下である。第二の方法はいふまでもなく他の諸國の例に倣つて金本位離脱又は平價切下げを行ひ、よつて以て國内物價をそのまゝにし、乃至これを引上げつゝ、對外的に物價及び生産費の低下をはかることである。
一九三三年夏ロンドン經済會議の失敗はフランスをしてこの何れの道を選ぶかの決定を強要したのであるが、フランスは第一の方法即ちデフレ政策によることゝなり金ブロックの結成を見た。その主なる理由は原價切下げ及びインフレが戰後の經驗より不人

氣であるがためで、この點はなほ今日においても變りがない。

然るにかくの如き方策による調整の努力は果して成功したか。世界的に通貨が低落し、金物價は改らないときフランスの努力は賽の河原に石を積むに似たものである。經濟的のデフレ政策は財政上の赤字を擴大し、それ自ら矛盾を生み、國際不安と國防の必要とはこの經濟的矛盾を擴張再生した。先づ各種の数字を一瞥するならばこの間の變化を知ることが出來よう。

一般的に見てデフレーションは「困難なる道」である。政府經費の減縮は特に困難である。官吏、退職官吏は俸給、恩給の切下げに反対する。惡化せる國際政局及び失業者増大は軍事費と救済費との膨張を要求する。更にデフレの過程は經濟的活動の不活潑を伴ひ、租税收入を継續的に減少せしめ、公債發行を増加せしめる。政府は又國有鉄道の不足額をカバーするため負債をやむなくされる。

從つて政府は財政經濟の調整に異常の困難を續けた。一九三二年及び三三年度予算の赤字総額は百三十億フランを超えるに及んで大緊縮を餘儀なくせられ、ヅーメルグ内閣成立後議會に財政上の獨裁權賦與を要求し緊急命令を以て豫算均衡上必要なる処分をなし得ることゝなつた。政府の緊急命令權については議院は常に喜ばない。而もなほ客觀的情勢は金本位維持の理論的前提としてこれを許さゞるを得なかつた。一九三三年四月四日より六月三十日に至る間に発布され四十一の緊急命令により約三十二億フランの節約がなされたのである。

政府の獨裁權獲得

ヅーメルグの後を承けたフランダン内閣は一時　デフレ政策を

放棄したが、國家財政は急激に悪化し三四年は約八十億フランの赤字を以て終り、公債類は二百億を増加した。この間フランは屢々動搖したが、巨大なる金準備の集積と英米の援助によつてこれを切抜けたのである。

然るに一九三五年三月三十一日におけるベルギーのベルガ切下げはフランス・フランをして重大なる危機に立たせた。フランの為替相場は暴落して大規模の資本逃避が始まり、四月から六月の終りまでにフランス銀行は約百十億六千万フランの金を失つた。かゝる切迫せる情勢を見て政府は財政の均衡と政府信用の回復とを策せざるを得なくなり、こゝに五月二十八日フランダン首相は再び議會に向つてこの目的のため獨裁権の賦与を要求した。しかしこれは議會の反対に逢ひ、政府はために辞職するに至つた。ブイツソン内閣がこれに代り、同様の要求をなしたが急進社會党の反對に遭ひこれ亦辞職し、財政は政治上の癌視せられるに至つた。次に成立したラヴアル内閣は巧妙なる戦術を用ゐて逆に議會より思惑取締り、フラン擁護を目的とした命令権を獲得した。

廣汎なる獨裁権を與へられたラヴアル内閣は思ひ切つて徹底的なデフレ政策を開始した。政府、縣、コンミユーン、鉄道等の經費は一割引下げられ、俸給賃金も一割低下せしめられた。而して政府はそれに相應した生活費の一般的低下のための手段をとり始めた。家賃は任意的に一割下げられ、重要商品並にガス、電氣、石炭、パン及び加里肥料の物價も亦引下げられた。しかしながら同時に多くの命令はデフレの一般政策に反した行き方をたどるを餘儀なくされた。公共事業はスピード・アツプされ暴落してゐた農産品の價格吊上げ方策がとられたがごときはこれである。かくして矛盾に矛盾を生み、最近に至つたのであるが、今年に入つてか

らの情勢をみるに次のごとくである。

本年の財政情勢

ラヴァル内閣の諸緊急命令は一九三六年度國庫支出で約五十五億フラン、地方予算で十三億八千五百万フランの減縮を行った。議會の予算委員會において急進社會党及び社會党議員はこれに反対して財政緊縮を緩和しようといふ行動をとったが結局以上の節約は小修正を加えたのみで一九三六年予算に具体化された。一九三六年の一般會計費の総額は四百億フランを一寸出る。この数字は前年の歳出が四百八十億フランであり一九三〇－一九三一年の五百三十億フラン突破と比較するときは著しき節約の跡を認め得るであらう。しかしながら実際上の經費節約は見掛程ではない。それは通常予算の外に特別費の六十二億三千万フランの承認があり、これは特別の軍事費であるが、通常予算の約二十

五億フランがこゝに入ってゐるのであり、従って政府經費は改善の徴あるが、依然として満足すべき状態ではない。

一九三五年の一般予算不足は少く見積って五十億フランに達し、鉄道も殆んど同額の不足を示した。最も内輪に見積っても一九三六年の新規公債発行高は約百億に上るであらう。これは最近五ヶ年間に約七百億フランを増加した公債を累加させ、今や政府の全收入の三十五パーセントを吸收する巨額な公債費を更に増加することになるであらう。財務省は國内に於いて借りることはフランス銀行の大藏省引受能力を百五十億フランより二百十億フランに増大した後、なほ非常に困難なることを知ったので本年二月ロンドンの銀行家と協定して四千万ポンドのクレヂットを設定するの餘儀なきに至った。

フラン貨の不安

かくの如くしてフラン危機は屢々到来した。ドイツのライン進出に続いて総選挙の接近、左翼殊に共産党の努力増大見越などから國内資本の逃亡と紙幣の退蔵とが加速度に増大した。今過去一ヶ年間のフランス銀行勘定の変化より特に貨幣不安に関する数字を抽出して示すと次のごとくである。（単位百万フラン、△印減）

	昨年四月二十六日現在	本年四月二十四日現在	比較
金	八〇、九三二	六一、九三五	△一八、九九七
割引商業手形	四、五〇〇	一四、五六九	一〇、〇六九
紙幣	八二、三五一	八二、五六七	二〇六
民間預金	一四、九二一	七、七五一	△七、一七〇
準備率	八〇%〇	六六%五	△一三%五

最近までの数字においては金準備は五百八十億フランを割り、而もその中約三十億フランはイギリスのためのイヤーマークであるといはれる。こゝに準備不足より再度の金流出をみれば金本位放棄の危機線に近づく。がなほ注目すべきは預金減と貸出の固定に伴ふ市中銀行の地位であり、銀行恐慌の可能性はその救済の必要を通じて準備の地位を薄弱ならしめるのである。五月上旬フランス銀行は公定歩合を一挙六分に引上げた。一方パリの諸銀行は自発的に為替賣渡の制限の挙に出たが、それもかゝる事情に基くのである。最近社會党のブルーム氏の本位維持聲明は一應の小康をフラン貨の上に與へた。だがフラン維持の基礎構成は次第に腐蝕し、磨減しつゝあることは疑を容れない。こゝに略ぼ最后に近き動揺が控えてゐるのであらう。經済不安の外になほ政局も依然として不安である。

社會党の態度如何

民衆戦線大捷によって政権が左翼に移ることは既定の事実であ

るが、こゝに左翼派に社會党の政策如何が具体的に政治經済の動向を支配するものとして注目を惹くに至ったことは當然である。

五月二十二日社會党首領ブルーム氏の放送演説は来るべき内閣の政綱たるべきものとして全世界の視聴を集めたが、國内的にはファッショ排撃民主制擁護を、經済的には革新的意味による不況打開を、外交上は國際平等と世界連帯を要求する國民総意に從ふとなしたが、抽象的にして新政策の方向はなほ不明に屬する。

これに先立って五月十日社會党大會においてブルーム氏は社會党の政綱の一班として財政經済政策について述べたところは次のごとく依然として先の諸党と同じく財政の均衡とフラン擁護であった。即ち曰く――

「フラン貨の平價切下げに對しては我々は常に反対して来たが現在においても依然として強硬に反対するものである。元来今

回のごときフラン貨に対する思惑及び危機は総選挙の結果如何に拘らず起ったのであらう。これは弱気思惑屋が平價切下げを豫定して策動し、その時期到来を待ってゐるからである。かくて現下の状勢は実力ある指導者を要求してゐる。社會党は若し次期内閣を組織する場合、國民經済振興に努力せんとするものであるが、これが為には先づ國民の自信回復が必要である。社會党は出来る限り國民の福祉増進を企図せんとするもので、健全財政なくして一國家の繁栄を齎らさないといふ見地から我々は健全にして均衡のとれた豫算を欲するものである。」

然らば社會党も亦民衆のインフレ嫌忌を考慮して客観的不可避の勢に逆行し、無用の努力を現状維持に向けるであらう。從って經済不安は依然として去らない。

民衆戦線異状なきか

フランの崩落がブルーム内閣成立とともに行はれるといふ見方はかゝる公党の聲明に徴しても正しくないと見られるが、しかし客観的の事情は危機接近を思はしめることあるを否定し得ない。こゝにその時期及び方法如何が問題となるのである。

その時期を決定するものは何であらうか。蓋し外交関係の切迫は金準備の保存を要求し、経済統制に轉機を與へるからである。

フラン引下の方法に関しては具体的に單なる金輸出禁止と平價の切下げとがあり、その何れかによつて乃至切下限度如何によつて世界經済への影響は異つて来る。從つて今後の豫想はこの點にも及ばねばならなくなるであらう。

ところでこゝにフラン貨の運命に関する一つの考慮を要する問題があることに気付く。こゝに我々は民衆戰線異状なきかの疑問を発せざるを得ない。

顧ると民衆戰線は三百七十八人の議席を占め、その協調は選挙に於いて反ファッショの目標のために完全に行はれた。だがしかし結局それは單一党の勝利でなく、依然として多くの党の寄合ひであり、今やファッショ排撃の目的を一應達した後において、殊に具体的政策実行の過程において協力は續くであらうか、協調が續かないとしたらどうか。既に一九三二年の選挙によつても左翼は三百五十の議席を占めたが、急進社會党と社會党が対立したため中央派を中心とする聯立的内閣の成立といふことに終つた歴史がある。

然らば今後社會党が百五十の議席を有しても依然自党だけでは少数党たる以上、急進社會党及び共産党との提携の必要が存するのであるが、果してそれが可能であり持続するか。既に共産党は五月六日書記長モーリス・トレース氏の演説を通じて社會党内閣へ

の参加を否認してゐる。
而も原理的に見る時共産党は社會党と具体的經済政策において手を握って進み得るであらうか。然らは民衆戰線の分裂によってブルーム内閣の將来も亦強力なるものではあり得ない。かくて政情の不安は一段のフラン崩壊の契機として存續するであらう。それに外交不安が更に急を加へることも考へねばならない。

× × ×

本文は國際經済週報（十一年六月号）所載なるが、四月及五月行はれたる総選挙と佛の政情を知るに便なるを以て收録す。

（佛蘭西）

昭和十一年六月二十日

フランス新内閣の勞働及び社會立法

國政研究會

フランス新内閣の労働及社會立法

社會党々首レオン・ブルーム氏がフランス首相になつてから一週間になる。この間に於けるフランス政界、財界の動きは目まぐるしく、アメリカ大統領ルーズヴエルト氏の就任當時を思はせるものがある。ルーズヴエルト大統領は就任早々、全國的銀行休業の善後策に當面したがブルーム氏の前には全國的罷業が待ち構へてゐた。

罷業の動機

フランスの大罷業はブルーム氏就任一週間前に勃発したもので、これは社会党――労働総同盟を主体とする――が議会において絶対多数を占めてゐない関係上、新内閣が従来の社會党の主張を緩和して自由主義政策を取り入れるだらうと傳へられたゝめ、こ

れを牽制するために行はれたものだと傳へられてゐた。罷業者側の要求は一週四十時間労働制、有給休暇制、團体契約権確立である。兎に角、罷業は六月四日ブルーム新内閣成立後も一向終熄する模様なく却って悪化した。罷業の指導権が共産党の手中に握られるに至ったためである。

よってブルーム首相は労資の妥協をはかると同時に、六日午後議會に臨んで罷業者側の要望実現を約した。かくて七日午後に至り労資間に罷業解決案に関する取極めをみ、さしもの大罷業も漸次解決の緒に着くに至った。

新内閣の構成

ブルーム内閣の當面した問題には全國的大罷業解決の外、逼迫せる経済対策、対獨、対伊政策を中心とする外交及び國防の改善等、幾多の重要懸案がある。又有史以來初めて内閣を組織した社會党獨自の政策実現にも迫られてゐた。

よってブルーム氏はこれら重要問題処理の都合、内閣を所管事務に從って七部門に分ち、各部門に長官を置いて政務の統一をはかることゝなった。その組織大要は左の通りである。

△總務部　首相ブルーム氏を主とし外に無任所相(三名)、内閣書記官長より成る。

△國防部　國防相兼陸相にして副總理たるダラディエ氏(急進社会党々首)を主とし外に空相、海相。

△一部行政部　内相サラングロ氏を主とし外に法相、文相、遞相

△外務及び拓務部　外相デルボス氏を主とし外に植民相。

△財政及び國債部　藏相オリオル氏を主とし外に恩給相。

△國家経済部　経済相スピナス氏を主とし外に土木相、商相及び農相。

△社会政策部　労働相ルバ氏を主とし外に保健相。

新内閣は社会党、急進社会党、共産党、社会主義同盟等より成る民衆戦線を背景とするものである尤も共産党及び社会主義同盟は入閣しなかったが、閣外にあって新内閣を援助することになってゐる。

新内閣の政綱

ブルーム首相は六日午前最初の國務會議を開き午後新議會に臨んで、その政綱を明かにした。その要旨は左の通りである。

政府は約百萬に上る罷業者と巨額の金喪失を來たした現在の危機を終熄せしむべき社會的及び経済的立法計画を樹てた。即ち政府は今議会開期中に先づ左の立法を行はんとするものである。

一、一週四十時間労働制の実施
二、團体契約権の確立
三、一ケ年二週間の有給休暇制
四、公共事業
五、軍需工業の國有化
六、ラヴアール内閣の不評判なる節約令の修正
七、フランス銀行の改革

以上の諸計画の立法を終ったならば続いて政府は失業救済基金、農業災害保険、農村負債整理、都市農村に於ける労働者養老制度に関する法案を提出する。又近く税制の単純化、負擔軽減に関する法案も提出する意向である。

右の新内閣諸政綱は民衆戦線の主張といふよりも寧ろ今回の罷業者側の主張を容れたものである。

次いでブルーム首相は、ファッショ排撃及び國防問題に言及して左の如く述べた。

一、新内閣は飽くまで民主々義に基いて施政を行ひ、共和制擁護に邁進する。（これは官公衙よりファッショ團加盟者を排撃する意図と解せられた）

一、対外政策に関し政府は國際條約を尊重し集團的平和機構により軍拡競争の終滅を期する。

以上の聲明によつて新内閣はイタリーの東阿政策に反対なる旨を明かにした。更に財政問題についても次の如く答辯した。

「政府の財政状態については未だ説明すべき時期に達してゐないしかしフランス國民の有する大なる信用により、必ずしもフランスの平價切下げを行ふ必要があるとは思はれない。」

二　ユー・ディール

ブルーム首相はその後早速これら新政策の実現に着手したが、今まで講ぜられた對策は左の通りである。

△労働及び社会立法　政府は罷業解決策として、且つ民衆戰線の綱領に基いて九日次の諸法案を議会に提出した。

一、一週四十時間労働制。
一、一ケ年二週間の有給休暇制。
一、團体契約権の確立。
一、一部薄給官公吏に対する減俸令の撤回。
一、大戰出征軍人の恩給引下令の撤回。

これらの法案は四十時間労働制法案を除き全部十一日下院を通過し上院に廻附された。

△佛銀の改組　從來フランス銀行は少数の大株主に支配されてゐた。よつて社会党は豫てより同行の組織改変を主張してゐたが、政府は六日の最初の閣議で先づ總裁の更迭を行ひ、民衆戰線の政綱に対するよき理解者である會計検査院首席検査官ラベイリ

ー氏を新總裁に任命した。なほ佛銀改組案は資本金、株式の形式、配當率、準備金株主代表制等全機構に對して大改革を加へんとするものである。

△軍需工業の國有案　これに關しては政府は既に成案を得てゐるやうであるが、未だ発表されるに至らない。しかし次の三案の何れかに落付くものとみられる。

一、直接國有案。

二、會社の重役会に政府代表者を入れる案。

三、會社の利潤徵收案。

△國防の統一強化　從來の陸海空三省の統一強化を圖るために國防省を新設、ダラディエ氏をこれに任命したが、九日更に常設國防委員會の設置を発表した。右は國防相兼陸相ダラディエ氏を議長とし海相、空相、ペタン元帥、參謀本部各部長を委員とするものである。

（國際經濟週報第十七巻第二十五号所載）

昭和十一年六月三日

(佛蘭西)フランス經濟の展望

國政研究會

フランス経済の展望

（財政経済時報十一、六號所掲摘録）

第一節　フランスの特殊的地位

一九二九年秋アメリカを襲つた世界恐慌は間もなく殆んど總ての資本主義國を席捲し盡したが、フランスのみは不思議にも唯一の繁榮の國として殘つた。それは半ば農業國として廣大な國内市場を有すること、東北部の荒廢地方に復興した工業が最新の設備を有ち得た事、フラン切下の余沢がなほ殘存してゐたこと等に因るものと言はれた。然しフランスが一つの資本主義國たる以上又この資本主義に必然的な恐慌の嵐の襲來をいつまでも免れてゐることが出來ない。一九三二年頃から恐慌はフランスをも襲つたのであつた。そして一、二年末、イギリスやアメリカには多少一般的な經濟界好転の傾向が見出されるに至つてゐるが、フランスは正常な

金本位を維持する唯一の國として殘つてゐる。

第二節　フランスの農業恐慌

一九三一年の國勢調査によるとフランス國民の四八・八パーセントは人口二千人以下の村に住んでゐる。又一九二六年の國勢調査によると人口の三八パーセントは農業及び林業に從事してゐる。農業だけをとつて見れば三六・六パーセントである。その三分の二は自作農である。從つて農村は大きな市場を形成する。そして農村の好況不況は一般の經濟界の好況不況に重大な關係がある。

フランスの農業は一九二九年から三一年にかけ非常な打撃を受けた。國内の農産物も豊作の結果下落し、諸外國の農産物も豊作と工業恐慌のための消費減退のため暴落した。一九三〇年から三一年にかけては多くの農産物が輸入された。當時フランスは唯一の好景氣國として殘つてゐたので、外國への支拂に制限もなかつ

たフランスの農民は小麥、果實、ビール、肉又はバタその他の輸入農産物に脅かされた。價格下落は政府をして農業保護の各種の方策をとらしめるに至つた。例へば小麥には百キログラムにつき八十フランの關稅を課するが如き方法である。然し國内の小麥收穫が非常にふえた。從つて價格は暴落した。一九三二年頃からフランスにも恐慌が襲來して工業生産物が下落して來た。然しその下落率は農業生産物に及ばなかつた。この鋏狀價格差は一層農民を不況ならしめた。

かくて農産物に於ては原料、農具等の生産手段も勞價も下落しないため生産費は低減せず、その生産物のみ下落するので農民は悲境に沈むこととなる。一九三四年フランダン內閣は巨額の費用を支出することによつて小麥の政府による貯藏その他葡萄酒のアルコールへの轉化等々の方策を決定し、農業恐慌の緩和に努めた

が然し未だそれは農民の購買力を大ならしめるほどの效果をあげてゐないのである。

第三節　フランスの財政

フランスの財政は過去六年間いつも赤字續きであつた。一九三〇—三一年度には二十四億フラン、一九三一—三二年度には五十六億フラン、一九三三年度には七十億フラン、一九三四年度には五十六億フラン、昨一九三五年度には五十二億フランの赤字を出したのである。今一九三六年度の豫算は昨年末議會を通過したが、それによると歳出は四百億フランを少しばかり出る程度になつてゐる。前年度の予算は四百八十億フランであつたのであるから、歳出の中二百五十億フランが借入金によつて賄はるべき臨時費予算に繰入れられたことを考慮すると、約五十五億フランの緊縮であつて予算均衡への努力が窺はれる。然し実際はこの均衡予算の

如くになるであらうか。フランス上院の財政委員會委員長ガルデエ氏は結局一九三六年度に於ても十億フラン乃至十五億フランの赤字は免れ得ないであらうと云つてゐる。又財政学者のアンリ・ミシエル氏も、一九三六年度の実際の歳出額は四百八十五億フランに上るべく、これに國債利子十億フランを加へると歳出額は四百九十五億フランになる。これから一九三五年七月の政府命令による節約額五十七億五千万フランを控除しても歳出額はなほ四百三十七億五千万フランに上る。歳入の方も、予算編成當時に於ける經濟界の一部の好転に基いて過大に租税收入を見積たが、実際の歳入は恐らく三百八十七億五千万フランを出でないと思はれる、かくて五十億フランの赤字が出ることになるが、政府は巧みな方法でこの半分二十五億フランを臨時費に繰入れ、結局一九三六年度の赤字は、二十五億フラン程度になるであらうと云つてゐる。

なほ臨時費予算は本来の臨時費三十五億フランに、これまでは通常予算に計上されてゐた軍事費や土木費等の二十五億フランを加へて合計六十億フランであつて、これを見積を超過して七十億フランに上るのではないかと言はれてゐたが、各種臨時費増加の見透しは政府をして議會の協賛を経て大藏省證券の発行最高限を百五十億フランより二百十億フランに擴張せしめるに至つてゐる。ドイツのラインランド侵入、対イタリー関係から結果したイギリスとの関係等々の國外政治状勢は愈々軍事的支出を大ならしめるであらうし、國内の一般的景氣上昇による税收入の著しい増大は当分望まれさうもないから、均衡予算は、結局紙上の予算たるに止まり、赤字のなくなるが如き事は恐らくあり得ないであらう。

第四節　フランスの経済界は回復しつゝあるか

フランスの経済界は回復しつゝあるであらうか。昨年の末頃から多少好転の兆候が見られないでもない。小麦の價格は一ブッシエルにつき最低四十フランであつたものが、今や百フランに騰貴し、葡萄酒は四フランから七・五フランに騰貴してゐる。ひいて農産物一般の騰貴を齎し、更に経済界一般の回復を伴ふかに見える。失業者も亦多少最近は減少の傾向がある。去る一月約四十八万七千人だつた失業者は四月には四十五万七千人となり約三万人を減じたのである。

然しこれらの兆候から直ちに経済界一般の好転を結論し得るかどうかは疑はしい。

農業は相変らず不景氣である。剰つた小麦や葡萄を處置するための政府の政策は多少効果があつた。又小麦や葡萄の價格が騰貴したのも事実である。然し騰貴の重要原因は次のシイズンの減收

の予想にある。過去四年間にフランスの農業が農產物の價格下落のため受けた損失を或る學者は五百億フランと見積つてゐる。従つて農村がその購買力を回復するのには相當の歳月を必要とするであらう。

外國貿易は昨年まで引續き減退してゐる。

フランス生產聯盟の報告書によれば

『今やフランスが恐慌の最頂點を過ぎたことは事實である。然し景氣が回復しつゝあるとは言へない。昨年中多小回復した產業はその回復の基礎極めて弱い。それはストックの涸渇と或る種の材料の更新とに基く國內消費の增加を基礎とする。國內の狀勢と國外の狀勢とに心をくばりつゝ一日一日註文を出す狀態である。何等か不安が感ぜられると註文が中絶する』

又ソシエテ、ゼネラル銀行の年報に

『一般的回復のフランスへの影響は少い。フランスは自給自足的性質多いため國外からの影響少く且つフランスは恐慌に入るのも遅かつた故である。最近数ケ月の好転は部分的なものに過ぎないから、これから一般的にフランス經濟の好転を結論することは出來ない。最近の好転は不作、カルテル協定、政府の註文等による。これは未だ一般的好転を齎し得ない』

更にコントアル、ナシヨナル、デスコント銀行の報告も、最近数ケ月の景氣上昇が外國市場の回復に關係ある產業例へば繊維工業に限られてゐることを指摘してゐる。

かくて、フランスの經濟界が一般的に好況の日を迎へるのは前途なほ遼遠なるものがあるやうに思はれる。

第五節　フランスの平價切下げの問題

フランスは昨一九三五年の中に五月と十一月と二度もフラン貨の危機を叫ばれたが、これを切抜けて來た　今年四月頃から又々

金の流出が盛んになつて来た。ドイツのラインランド侵入その他の國際政局の不安からフランス銀行に金兌換を要求する者多く、フランス銀行は二月初旬に三分五厘に引下げた公定割引歩合を三月二十八日五分に引上げた。五月初旬の總選擧に社會党が大勝を得て、六月には社會党を中心とする内閣の組織さるゝこと明かとなるや、金兌換要求の勢は愈々激烈となり、五月初めの一週間に於ける兌換は三十億フランに上り、その大部分が海外に流出したと云はれてゐる。フランス銀行は例の如く五月六日公定割引歩合を更に六分に引上げてフラン貨の防衛に努めた。かくて二月に六百五十九億千百万フランであつたフランス銀行の金準備は三月の六百五十億フランより四月下旬の六百二十億フラン、五月八日の五百八十億フランへと減少した。金準備率は三月の八十パーセントより五月初旬の六十二パーセントへと低下したのである。昨年

中にフランス銀行は約百六十二億フランの金を失つたが、本年一月より五月初旬までに更に八十億フランを失つたのである。

そこでフランの平價切下げが問題となる。

甲、切下げ近きにありとなす論者は、(一)ドイツのラインランド侵入、對イタリー外交をめぐるイギリスとの疎隔、小協商國離反の傾向等々の國際的不安の増大、(二)赤字財政一月二月といづれも相変らず見積りより收入は少くなつてゐること、(三)公債政策の行詰り、即ちフランスの公債既に二千億フラン、過去四年間の増加だけでも七百億フランに上り、長期債消化の困難は政府をして短期債殊に大藏省證券に頼ることを余儀なくするが、そしてその発行限度は今年三月三百十億フランに擴張されたが、フランス銀行の所有する割引手形は既に十七億フランに上つてをり、民間銀行亦既に飽滿状態にある。政府はイギリスから二月三十億フランの

借款を得たと云ふやうな関係にある等々の諸事情は莫大な金流出と相俟つて遂にフランスをして金輸出禁止、平價切下げを断行するの已むなきに至らしめるであらうと云ふのである。

乙、フランスはどこまでもフラン貨を擁護し終へるであらうとする論者は、(一)フランの金保有高は減少はしてゐるけれどもなほ六十パーセント以上を占めてをり、法定の最低限度、三十五パーセントになるまでにはなほ前途遼遠であること、(二)既に一九二八年五分の一への平價切下げてふ大きな犠牲を拂つたのであるから、又々切下げを行ふが如きは余りに大なる犠牲を國民に—フランスに多い多数の金利生活者に—強ひるものであること、(三)イギリスやアメリカが自己を防衛する立場から極力フラン貨維持に協力するであらうと思はれること等々と説くのが普通である。エリオ氏はその選挙演説に於て、フラン維持に努むべき理由として、平價切下げは工業生産物を騰貴せしむべきも農業生産物の騰貴がこれに伴はないこと、フランの切下げはポンドとドルとの新たな切下げを伴ふに至ると思はれ従つて切下げの効果なきこと、切下げによるフランス銀行保有金の再評價は政府に百五十億フランの利益を與へるに過ぎず、それで短期債を償還すれば剰すところ何物もないこと等をあげてゐる。社会党には資本課税、フランス銀行の改組、平價切下げ等を主張する人々、即ち私有財産、中央銀行の地位、契約の神聖等資本主義の基礎的諸條件を変革せんことを主張する人々もある。従つてこれに恐れをなして金を海外に逃避せしめ又はこれを退蔵する人も出来てくる—現在各種の退蔵は四百億フランに達すると言はれてゐる—が、然し五月初旬社会党の大會に於て党首レオン、ブルム氏は平價切下げに反対の意思を表明したと云はれるから、盛んに金を海外へ流出せしめつゝある投機者流

のなすところにフランス國民が滔々として追随するに至るが如き
ことさへなければ、フランス國際状勢の急転なき限り恐らく昨年二回に歩
つてフラン貨の危機を見事に切り抜けた如く、今年も亦これを切
り抜けることになるのではなからうか。然し今暫くはその危機を
脱し得たとしても、社会党内閣がその在来の諸主張を実行に移さ
んとする程度如何によつては、又それを実行に移す方法如何によ
つては、更に或は國際状勢の進展如何によつては、フランの危機は
やがて再び襲ひ来たるであらう。

群馬県立図書館
0706407-4